感染症から おなかの 赤ちゃんを 守ろう！

母子感染症
予防のポイント

岡山大学病院
OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL

母子感染症とは

何らかの微生物（細菌、ウイルス、寄生虫など）が妊娠中のお母さんから赤ちゃんに感染することを「母子感染」や「胎内感染」と言います。
母子感染症を起こすと、胎児死亡の原因になったり、赤ちゃんの発育が遅れることがあります。また、出産後も発達の遅れや様々な症状が出る可能性があります。

原因となる病原体

Toxoplasma
トキソプラズマ

Others
梅毒、B型肝炎、C型肝炎、
パルボウイルスB19、水ぼうそうなど

Rubella virus
風疹（ふうしん）ウイルス

Cytomegalovirus
サイトメガロウイルス

Herpes simplex virus
単純ヘルペスウイルス

頭文字をとって**TORCH（トーチ）症候群**
と呼ばれています。

風疹（ふうしん）

風疹（ふうしん）は、発熱や発疹をきたす感染症です。
妊娠中に風しんに感染すると赤ちゃんに白内障、難聴、心疾患、発達の遅れなどの症状がでることがあります。
日本では2012年～2013年に成人男性を中心に風疹が流行し、この流行の影響で先天性風疹症候群（せんてんせいふうしんしょうこうぐん）の患者さんが45例報告されました。

できる対策は？

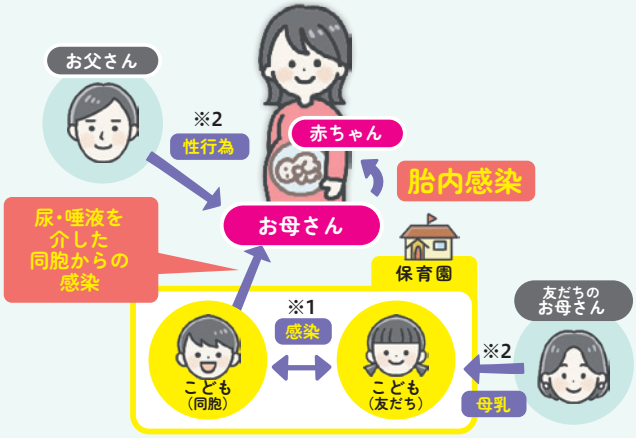
家族も含めて「予防接種歴」を確認しましょう。

風疹含有ワクチンは生ワクチンであり、妊婦さんは接種できません。妊娠中の検査で抗体価が不十分なら、“出産後”に次の妊娠に備えてワクチンを接種しましょう。
予防接種歴や抗体価が不十分な方は“妊娠前”にワクチンを接種しましょう。なお、接種後2か月間は避妊が必要です。
風疹の定期予防接種を受ける機会がなく、特に抗体保有率が低い世代は1962年（昭和37年）4月2日～1979年（昭和54年）4月1日生まれの男性です。

サイトメガロウイルス

サイトメガロウイルス（CMV）は、多くの方が罹患するありふれたウイルスです。**母乳、性行為、こどもの唾液や尿**により感染し、日本では成人の半数以上がすでに感染しています。こどもも大人も健康であれば感染しても大きな影響がないことが多いですが、**妊娠中に感染した場合**は、**赤ちゃんに難聴、発達の遅れなどの症状**がでることがあります。
出生時に問題がなくても**成長するにつれて難聴や発達の遅れ**が明らかになる場合もあります。

CMVの感染経路



※1　乳幼児では感染しても症状がでないことが多いです。
感染後しばらくはウイルスが体液（唾液・尿など）から出てきます。
※2　多くの成人は潜伏感染しており、健康な人でも時々体液中（母乳・唾液・性分泌液など）にウイルスが出てくることがあります。

できる対策は？

おむつ替えの後は
しっかり手を洗いましょう。

こどもとの食器・はし・スプーンの共有や食べ残しを食べるのはやめましょう。

唾液・尿と触れそうな場所を
清潔に保ちましょう。

こどもとのキスなどでの唾液の接触はさけましょう。

妊娠中の性行為は慎重に。
行う際はコンドームを使用しましょう。膣性交だけでなく口腔性交でも感染することがあります。
※コンドームには、サイトメガロウイルス、ヘルペスウイルス、梅毒、クラミジア、淋菌などの感染症を防ぐ効果もあります。

先天性サイトメガロウイルス感染症は、完全な予防が難しい疾患です。ご兄弟がいらっしゃる場合、小さなこどもの唾液を完全にさけることは困難ですが、リスクを認識し、上記のような注意事項を意識することで罹患率が下がることが知られています。

トキソプラズマ

トキソプラズマは、**肉類、ネコの糞、土の中にいる病原体**です。感染しても健康な人には影響は少ないですが、**妊婦が初めて感染した場合**は、赤ちゃんの**眼や脳に影響がでる場合**があります。出生時に問題がなくても**成長するにつれて視力や発達の遅れ**などがでてくる場合があります。

できる対策は？

1 肉類、貝類はよく加熱して、野菜や果物はよく洗ってから食べましょう

「おいしく召し上がっていただくためには…」「新鮮な肉だから大丈夫！」という言葉はトキソプラズマを想定した声かけではありません。

さけた方がよい食品

ステーキ（ミディアム／レア）、ローストビーフ、サラミ、生ハム（生ハムは塩漬けした生肉）、生ベーコン、肉のパテ、ユッケ、馬刺し、鳥刺し、クジラの刺身、生レバー、タルタルステーキ（フランス料理）、加熱が不十分なジビエ料理（シカ・イノシシ）など　※すべて加熱が不十分な食品です。

2 ガーデニングや砂遊び後は手をよく洗いましょう

土や砂の中には**トキソプラズマの卵が混じっている可能性**があります。

3 飼いネコのお世話はなるべく他の家族にしてもらいましょう

- ☑ネコの感染を防ぐために、餌として生肉をあげないこと。
- ☑外飼いをしない。

もともと室内でネコを飼っている場合は、過度に心配する必要はありません。

治療薬について

妊娠中に罹患した場合、“赤ちゃんの感染を予防”するための薬剤はありますが、“赤ちゃんが感染した場合の治療薬”は**国内未承認**（2025年3月時点）**で、すぐには手に入りません。**そのため、**予防がとても重要**になってきます。

おなかの赤ちゃんを守ろう！ 母子感染症予防

1 基本!

手を洗う習慣をつけましょう。

2 風しん・水ぼうそう

抗体価が不十分な場合、妊娠“前”にワクチンを接種しましょう。

3 サイトメガロウイルス

こどもの食べ残しは食べないようにしましょう。

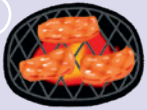
4 サイトメガロウイルス

小さなこどもの尿や唾液に触れたときは手をしっかり洗いましょう。

5 サイトメガロウイルス

妊娠中の性行為は慎重に。行う際はコンドームを使用しましょう※。

6 トキソプラズマ



肉や貝はしっかりと中心部まで加熱してから食べましょう。

7 トキソプラズマ

ネコの排泄物に触れないようにしましょう。

8 トキソプラズマ

ガーデニングなど土や砂に触れるときは手袋をしましょう。

9

家族も感染対策（ワクチン・手洗い）をしっかりしましょう。

※コンドームには、サイトメガロウイルス、ヘルペスウイルス、梅毒、クラミジア、淋菌などの感染症を防ぐ効果もあります。

岡山大学病院　小児科・産科婦人科
〒700-8558　岡山市北区鹿田町2-5-1
TEL 086-223-7151（代表）

「公益財団法人川崎医学・医療福祉学振興会教育研究助成（令和６年度）」
および「公益財団法人岡山医学振興会第24回教育助成」の資金で作成

トーチの会（患者会）